NOMURA
Connecting Markets East & West

2015年3月期第3四半期
決算説明資料

米国会計基準 (US GAAP)

野村ホールディングス株式会社

2015年1月

© Nomura

目次

NOMURA

プレゼンテーションの概要

- エグゼクティブ・サマリー(P2)
- 2015年3月期決算の概要(P3)
- セグメント情報(P4)
- 営業部門(P5-6)
- アセット・マネジメント部門(P7-8)
- ホールセール部門(P9-11)
- 金融費用以外の費用(P12)
- 強固な財務基盤を維持(P13)
- 資金調達と流動性(P14)

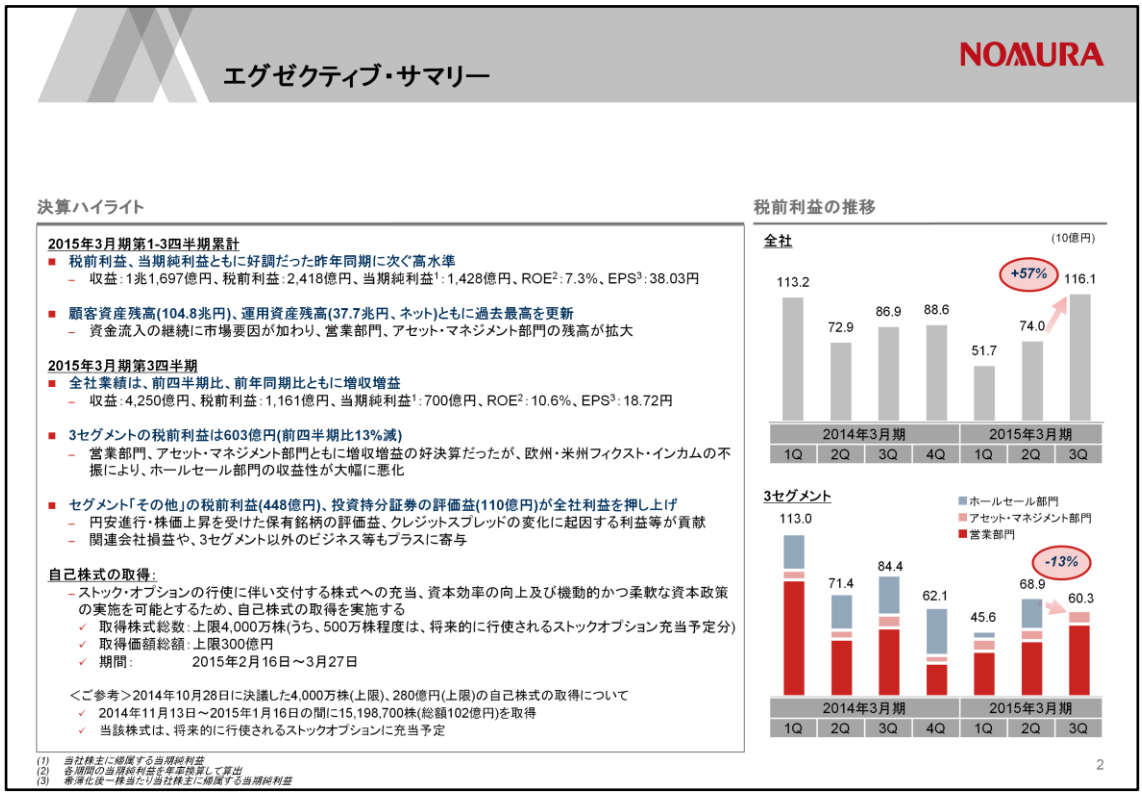
Financial Supplement

- バランス・シート関連データ(P16)
- バリュー・アット・リスク(P17)
- 連結決算概要(P18)
- 連結損益(P19)
- 連結決算：主な収益の内訳(P20)
- 連結決算：セグメント情報と地域別情報　税前利益(損失)(P21)
- セグメント「その他」(P22)
- 営業部門関連データ(P23-27)
- アセット・マネジメント部門関連データ(P28-29)
- ホールセール部門関連データ(P30-31)
- 人員数(P32)

柏木です。

それでは、お手元の資料にそって、2015年3月期、第3四半期決算についてご説明いたします。

2ページをご覧ください。



まず、第1四半期から第3四半期の累計ですが、収益は1兆1,697億円、税前利益は2,418億円、当期純利益は1,428億円となり、好調だった昨年同期に次ぐ、高い利益水準を確保しました。

資金の流入にマーケット要因が加わり、営業部門の顧客資産残高は100兆円を突破、アセット・マネジメント部門でも運用資産残高は過去最高を更新しました。

第3四半期の決算は、

- 収益が4,250億円、前期比14%の増収
- 税前利益は1,161億円、前期比57%の増益
- 当期純利益は700億円、前期比32%の増益
- 年率換算したROEは10.6%
- EPSは18円72銭となり、前期比、前年同期比ともに増収・増益となりました。

3セグメント合計の税前利益は603億円、前期比13%の減益。

営業部門、アセット・マネジメント部門の業績は極めて好調でしたが、欧州・米州のフィクスト・インカムが振るわず、ホールセール部門の収益性が大幅に悪化しました。

セグメント「その他」の税前利益が448億円、投資持分証券の評価益が110億円と、全社の利益を押し上げる要因となっています。円安の進行や株価上昇を受けて保有株式の時価が上昇したこと、また、クレジット・スプレッドの変化に起因する利益などが貢献しました。

2015年3月期決算の概要

NOMURA

決算ハイライト

	2015年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比	2015年3月期 第1-3四半期累計	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	4,250億円	+14%	+12%	1兆1,697億円	+0.2%
金融費用以外の費用	3,089億円	+3%	+6%	9,279億円	+4%
税前利益	1,161億円	+57%	+34%	2,418億円	-11%
当期純利益 [1]	700億円	+32%	+45%	1,428億円	-6%
EPS [2]	18.72円	+32%	+48%	38.03円	-5%
ROE [3]	10.6%			7.3%	

(1) 当社株主に帰属する当期純利益
(2) 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益
(3) 各期間の当期純利益を年率換算して算出

3

また本日、取得株数の上限を4,000万株、取得総額300億円を上限とする自己株式の取得を決議いたしました。
昨年10月に発表した、上限4,000万株、280億円の自己株式の取得は、11月13日から1月16日の期間で約1,520万株、金額にして102億円で終了しました。前回、自己株式の取得を決定した背景は、資本水準に余裕があり、株価が割安だと判断したからです。株価へのインパクトを極力おさえるため、取得価格と一日当たりの取得株数に一定の制限を設けて、信託銀行に委託しましたが、10月31日に、日銀の追加金融緩和決定があり、当社株価が想定したより高めに推移したため、結果的に上限に達することなく、終了しました。

本日決議した自己株式の取得は、前回の積み残しである約2,500万株に、1,500万株を加えた4,000万株を上限にします。
この4,000万株のうち500万株程度は、将来的に行使されるストックオプションに充当する分です。残りの3,500万株程度については、さまざまな資本政策の選択肢に対して、機動的かつ柔軟に活用していきたいと考えています。

4ページをご覧ください。

セグメント情報

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

		2015年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比	2015年3月期 第1-3四半期累計	前年同期比
収益	営業部門	1,288億円	+9%	+1%	3,536億円	-15%
	アセット・マネジメント部門	234億円	+8%	+10%	685億円	+14%
	ホールセール部門	1,789億円	-6%	-5%	5,584億円	-1%
	3セグメント合計	3,312億円	+0.3%	-2%	9,805億円	-6%
	その他	828億円	+102%	+134%	1,721億円	+59%
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	110億円	4.3x	+78%	171億円	-7%
	収益合計(金融費用控除後)	4,250億円	+14%	+12%	1兆1,697億円	+0.2%
税前利益	営業部門	505億円	+30%	+6%	1,209億円	-28%
	アセット・マネジメント部門	93億円	+20%	+5%	254億円	+17%
	ホールセール部門	5億円	-98%	-98%	284億円	-64%
	3セグメント合計	603億円	-13%	-29%	1,748億円	-35%
	その他	448億円(※)	17.7x	-	499億円	-
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	110億円	4.3x	+78%	171億円	-7%
	税前利益合計	1,161億円	+57%	+34%	2,418億円	-11%

(※) 補足
- 関連会社損益の持分額(182億円) ～関連会社が保有する有価証券の評価益を含む
- 自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益(89億円、第2四半期は64億円の利益)
- 足利ホールディングス株式の評価益(99億円、第2四半期は32億円の損失)

4

先ほど申し上げました、セグメント「その他」の税前利益448億円について、下のボックスで補足しています。

まず、関連会社損益の持分額が182億円と、通常より大きく出ています。これは、関連会社が保有する有価証券で大きめな評価益が計上されたためです。

また、「自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益」は89億円。そして、保有する足利ホールディングス株式の評価益として、99億円を計上しました。

それでは、各ビジネスの業績に移ります。5ページをご覧ください。

営業部門

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)

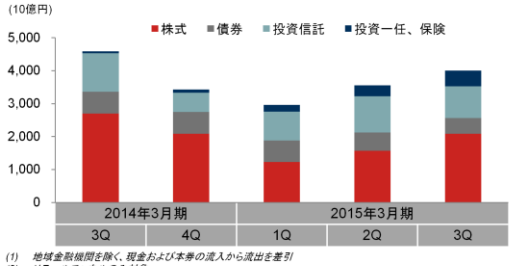
	2014年3月期		2015年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計（金融費用控除後）	128.0	97.9	106.9	117.9	**128.8**	+9%	+1%
金融費用以外の費用	80.3	74.6	75.3	79.1	**78.3**	-1%	-2%
税前利益	47.7	23.3	31.6	38.9	**50.5**	+30%	+6%

決算のポイント

- 収益: 1,288億円 (前四半期比9%増、前年同期比1%増)
- 税前利益: 505億円 (前四半期比30%増、前年同期比6%増)
- 前四半期比で増収増益～税前利益は昨年第1四半期に次ぐ高水準
  - 市場が活況を呈する中、株式が好調
  - ヒアリングを通じて顧客ニーズに合わせた提案を継続～投資一任や保険が増加
  - マーケットの上昇も加わり、顧客資産残高は過去最高を更新
- 顧客基盤
  - 顧客資産残高 104.8兆円 (99.3兆円)
  - 残あり顧客口座数 524万口座 (521万口座)
  - NISA申込口座数 146万口座 (141万口座)
  - 現金本券差引[1] 1,766億円 (4,848億円)

( )内は9月末 / 前四半期

総募集買付額[2]



総募集買付額[2]は前四半期比13%増

- 株式:前四半期比33%増
  - 好調なセカンダリー・ビジネスに加え、プライマリー案件も貢献 (IPO/PO募集額[3]:2,159億円、前四半期比2.7倍)
- 投信:前四半期比12%減
  - グローバル高配当株、ハイイールド関連商品等が買付の中心
  - 基準価格の上昇局面で利益確定の動きが継続～投信純増は低水準
- 債券販売額は4,755億円、前四半期比15%減
  - 大型リテール債があった前四半期比では国内債が減速するも、外債は堅調

(1) 地域金融機関を除く、現金および本券の流入から流出を差引
(2) リテールチャネルのみ対象
(3) リテールチャネル、ネット＆コール、ほっとダイレクトが対象

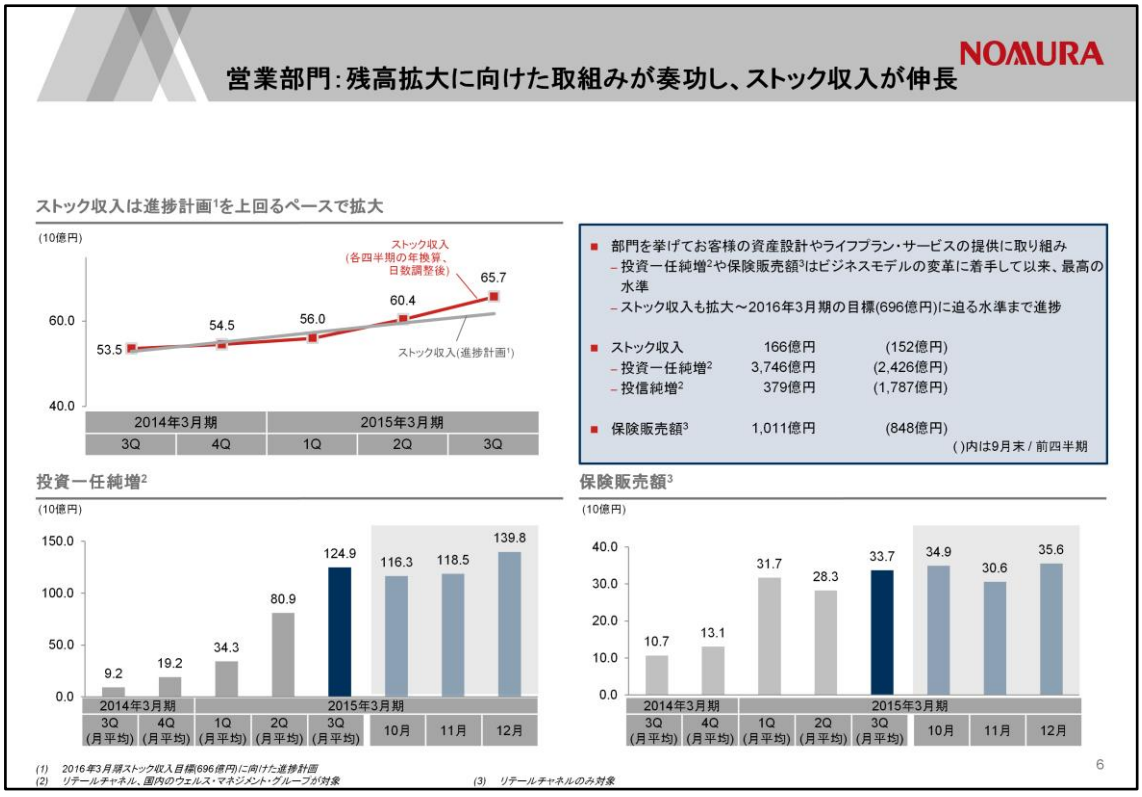
5

最初に営業部門ですが、日銀の追加金融緩和等を受けた株価の上昇や、プライマリー案件の増加を背景に、株式が好調でした。また、投資一任や保険も好調に推移し、下段にありますように、総募集買付額は前期比で13%増加しました。

相場上昇を受け、利食い売りも多く、現金本券差引は1,766億円のプラスと少なめでしたが、12月末の顧客資産残高は、マーケット要因もあり、過去最高の104兆8,000億円まで積み上がっています。

収益は1,288億円、前期比9%の増収

税前利益は505億円、前期比30%の増益、これは、昨年第1四半期に次ぐ高い利益水準です。



6ページにありますように、投資一任純増や保険販売額は、ビジネスモデルの変革に着手して以来、最高の水準です。

第3四半期のストック収入は166億円、これを年率換算すると657億円となり、2016年3月期の目標である696億円も視野に入ってきました。

次にアセット・マネジメント部門です。 7ページをご覧下さい。

アセット・マネジメント部門

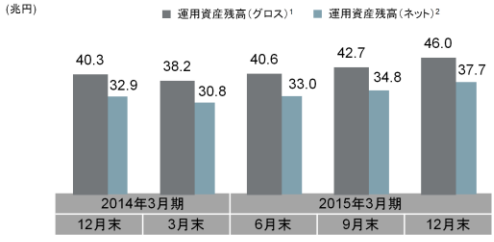
NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)

	2014年3月期		2015年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計(金融費用控除後)	21.2	20.5	23.3	21.7	**23.4**	+8%	+10%
金融費用以外の費用	12.3	15.1	15.1	13.9	**14.1**	+2%	+15%
税前利益	8.9	5.3	8.3	7.8	**9.3**	+20%	+5%

運用資産残高



決算のポイント

- 収益: 234億円 (前四半期比8%増、前年同期比10%増)
- 税前利益: 93億円 (前四半期比20%増、前年同期比5%増)
  - 投資一任向け商品を含め投信への資金流入が継続、運用資産残高は過去最高を更新
  - 運用報酬の拡大に加え配当収入や成功報酬等もあり、2008年3月期第2四半期以降の最高益を達成

投資信託ビジネス

- インカムゲイン等を追求する投信や、投資一任向け投信を中心に資金が流入

	第3四半期資金流入額
–野村テンプルトン・トータル・リターン:	1,593億円
–野村グローバル高配当株プレミアム:	1,253億円
–野村外国債券インデックス(野村投資一任口座向け):	732億円

- 私募投信の販売が引き続き好調、残高は前四半期比17%増(前年同期比約2.6倍)
- ファンドラップやSMA専用投信の残高[3]が前四半期比78%増(前年同期比約5.6倍)

投資顧問ビジネス

- UCITS[4]ファンドを通じ海外ビジネスが引き続き拡大
  - ✓ 日本株やUSハイイールドへの資金流入が継続し、UCITS[4]ファンド残高は前四半期比24%増(前年同期比66%増)
  - ✓ アジアのリテール投資家への販売に加え、ラテンアメリカの年金基金から新規に運用を受託するなど、地域、顧客層ともにビジネスを拡大
- スマートベータ型商品の残高が続伸

(1) 野村アセットマネジメント、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、野村プライベート・エクイティ・キャピタルの運用資産の単純合計 (2) 運用資産残高(グロス)から重複資産控除後
(3) 野村アセットマネジメント単体ベース (4) Undertakings for Collective Investment in Transferable Securities (UCITS)、欧州委員会指令に定義される譲渡可能証券の集団投資事業のことで、欧州連合における投資信託の統一基準

7

収益は234億円、前期比で8%の増収
税前利益は93億円と、2007年7-9月期以降の最高益を達成しました。

投資一任向け商品などに資金が流入し、市場要因も追い風となって、12月末の運用資産残高は過去最高の37兆7,000億円となりました。

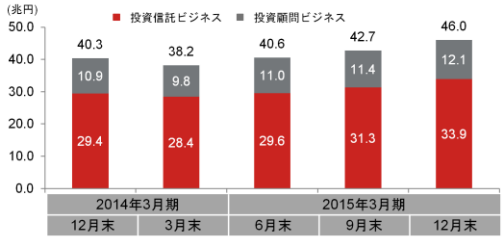
投信ビジネスでは、私募投信の販売が好調で、ファンドラップ、SMA専用投信と同様に、残高が積み上がっています。
投資顧問ビジネスでは、欧州統一規格であるUCITS適合ファンドを通じて、海外のビジネスが広がってきています。欧州域外では、従来のアジアに加え、今回、新たにチリやメキシコの年金基金から運用受託するなど、地域、顧客層ともに販路が拡大しました。

9ページをご覧ください。ホールセール部門の概要です。

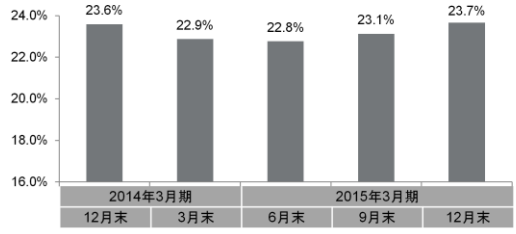
アセット・マネジメント部門：投資一任向け商品、UCITSファンドの拡大

NOMURA

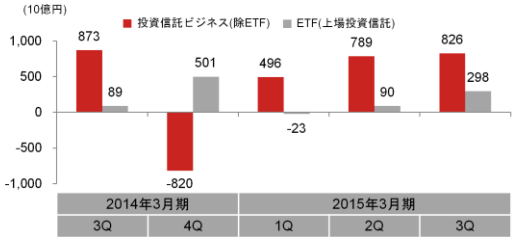
運用資産残高（グロス）[1]－ビジネス別



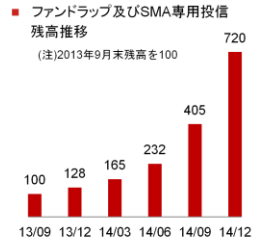
野村アセットマネジメントの公募投信シェア[2]



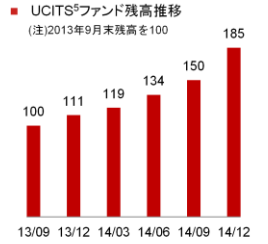
投資信託ビジネスの資金流出入[3]



投資一任向け商品の拡大[4]



UCITS[5]ファンドの拡大



(1) 野村アセットマネジメント、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、野村プライベート・エクイティ・キャピタルの運用資産の単純合計 (2)出所：投資信託協会
(3) 運用資産残高（ネット）に基づく資金流出入額 (4) 野村アセットマネジメント単体ベース
(5) Undertakings for Collective Investment in Transferable Securities (UCITS)、欧州委員会指令に定義される譲渡可能証券の集団投資事業のことで、欧州連合における投資信託の統一基準

ホールセール部門

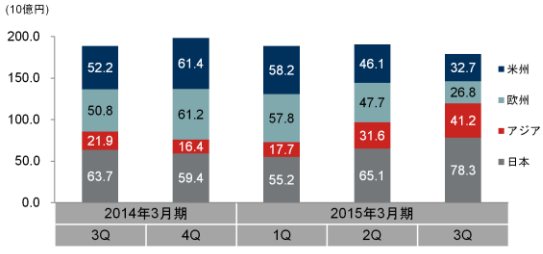
NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)

	2014年3月期		2015年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
グローバル・マーケッツ	158.0	166.8	166.6	168.1	**149.7**	-11%	-5%
インベストメント・バンキング	30.7	31.7	22.3	22.5	**29.2**	+30%	-5%
収益合計(金融費用控除後)	188.7	198.5	188.9	190.6	**178.9**	-6%	-5%
金融費用以外の費用	160.9	165.0	183.1	168.4	**178.5**	+6%	+11%
税前利益	27.8	33.5	5.7	22.2	**0.5**	-98%	-98%

地域別収益



決算のポイント

- 収益: 1,789億円 (前四半期比6%減、前年同期比5%減)
- 税前利益: 5億円 (前四半期比98%減、前年同期比98%減)

- 前四半期比で減収減益
  - 欧州・米州のフィクスト・インカムが苦戦～金利の急激な低下やボラティリティの急上昇を受け、トレーディング環境が大幅に悪化
  - 市場売買高の増加や注力分野での収益機会を的確に捉え、エクイティ、インベストメント・バンキングは好調
  - 円安の進行、株式の取引量拡大などでコストが増加

地域別概況(収益、前四半期比)

- 日本(783億円、20%増)
  - 全ビジネスラインが前四半期比で増収となり、収益は6四半期ぶりの高水準
- アジア(412億円、30%増)
  - 2009年4月以降、最高の四半期収益を更新
  - グローバル・マーケッツが好調～為替を中心にエマージング関連ビジネスが伸長
- 米州(327億円、29%減)
  - フィクスト・インカムの減速を、堅調なエクイティが一部相殺
  - ビジネスの戦略的拡大を行っているインベストメント・バンキングで、大型案件を多数獲得
- 欧州(268億円、44%減)
  - フィクスト・インカム、エクイティ共に大幅減収
  - 欧州金融機関の資金調達サポートやソリューション・ビジネスが収益に貢献

9

収益は1,789億円、前期比6%の減収となりました。

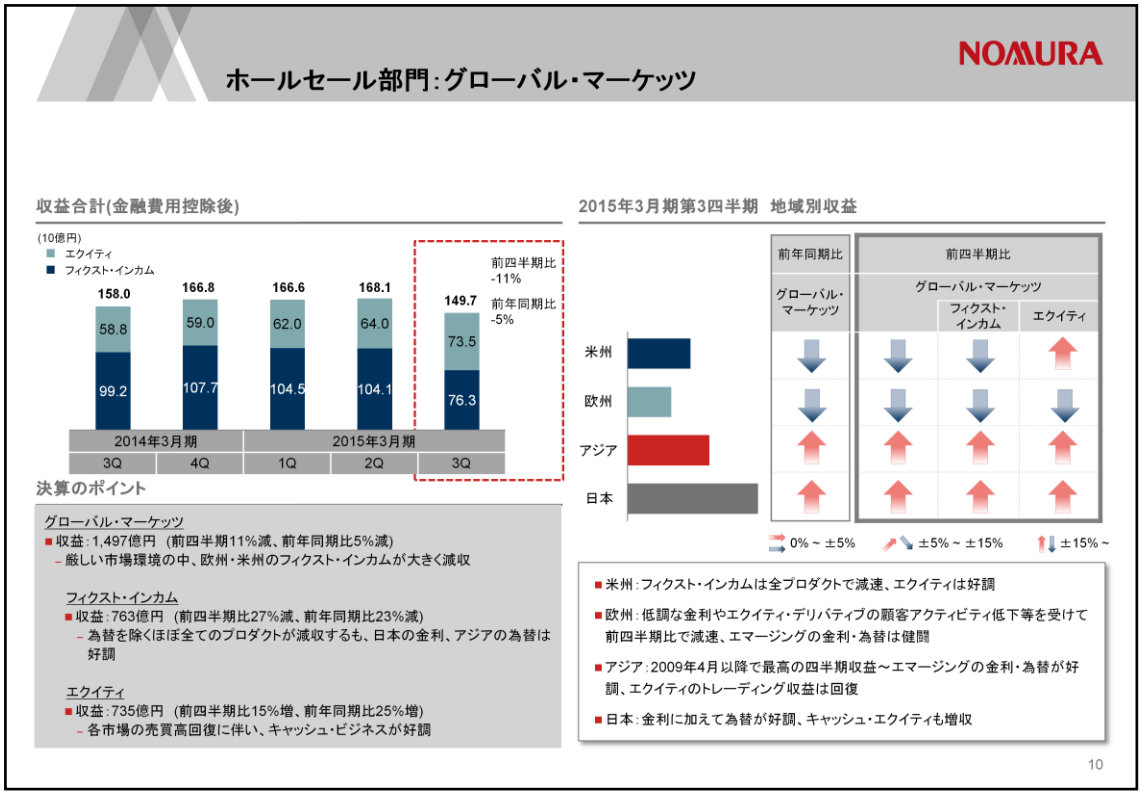
これは、10月の急激な金利の低下や、ボラティリティの急上昇を受けて、トレーディング環境が悪化し、欧州・米州のフィクスト・インカムが大幅な減収になったことが要因です。

エクイティや、インベストメント・バンキングは前期比で増収

また地域別には日本とアジアが好調でしたが、欧州と米州の減速や、取引量拡大によるコストの増加などで、ホールセール部門の税前利益は5億円、前期比98%の減益となりました。

次に、ビジネスライン毎の状況です。

10ページをご覧下さい。



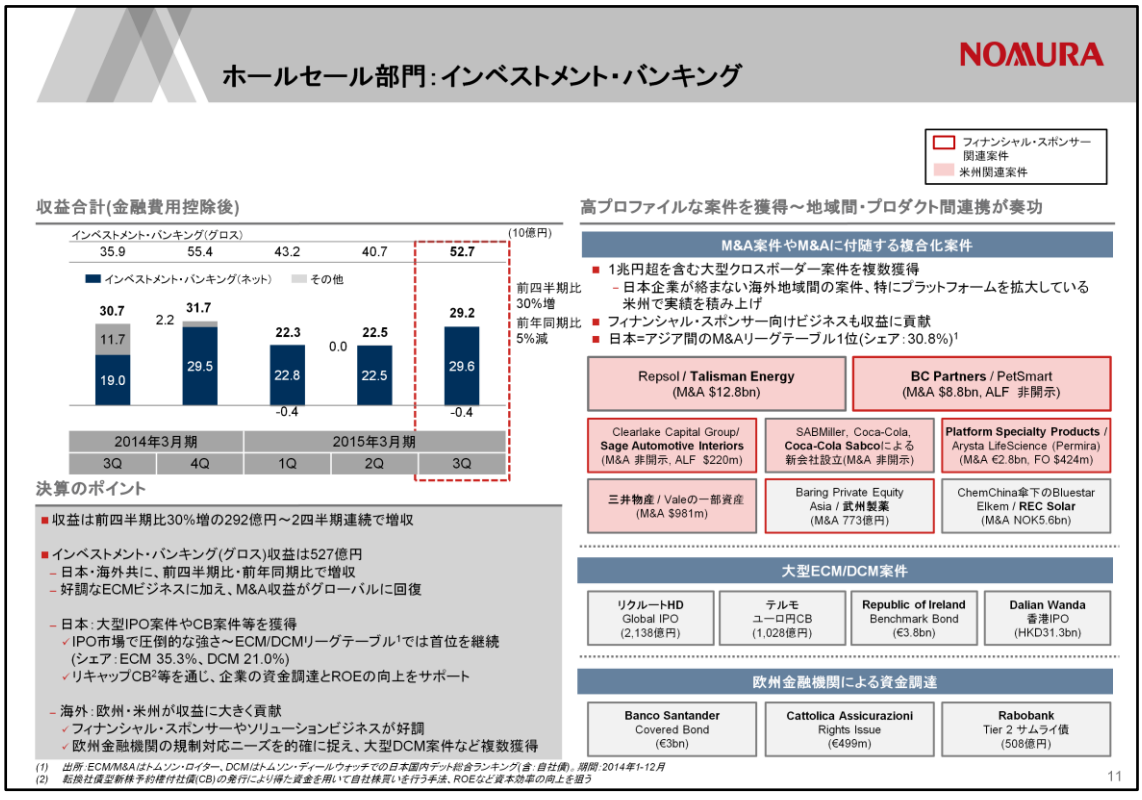
グローバル・マーケッツの収益は1,497億円、前期比11%の減収でした。

フィクスト・インカムの収益は763億円、前期比27%の減収。日本の金利、アジアの為替は好調でしたが、欧州や米州の金利・クレジットを中心に苦戦しました。

エクイティの収益は735億円、前期比15%の増収。グローバルに市場売買高が回復し、キャッシュ・ビジネスが好調でした。

地域別にみますと、欧州、米州が減速、一方で日本とアジアは大幅増収となり、特にアジアは2009年4月以降で最高の四半期収益を計上するなど、注力するエマージング関連ビジネスを中心に顧客フランチャイズが着実に拡大しています。

11ページをご覧ください。インベストメント・バンキングです。



収益は292億円、前期比30%増収となりました。

インベストメント・バンキングのグロス収益は527億円。日本、海外ともに前期比、前年同期比で増収になっています。

日本では大型IPO案件やCB案件などを獲得し、リーグテーブルでは、高いシェアを維持しています。

海外では、欧州・米州が収益に大きく貢献しました。

特に第3四半期は、右側に記載している1兆円超の案件をはじめ、日本企業が絡まない、いわゆる外＝外のクロスボーダーM&A案件や、エクイティ・ファイナンスなど、高プロファイルな案件を多数獲得しました。特に、プラットフォームを拡大している米州や、注力するフィナンシャル・スポンサー等のセクターで、着実に実績が積み上がっています。

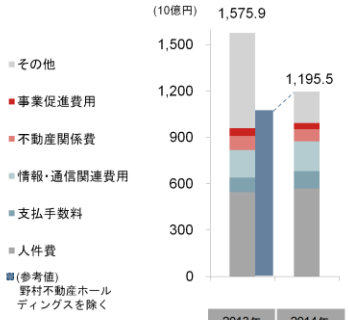
こちらに記載しているM&A案件の多くは第4四半期以降のクロージングを予定しており、今後の収益貢献を見込んでいます。

コストについてご説明します。12ページをご覧ください。

金融費用以外の費用

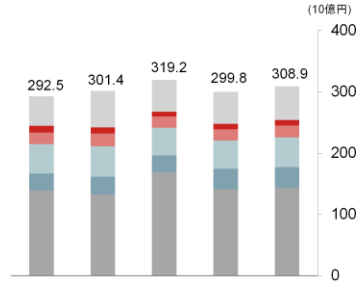
NOMURA

通期



	2013年3月期	2014年3月期
人件費	547.6	570.1
支払手数料	91.4	111.8
情報・通信関連費用	179.9	192.2
不動産関係費	91.5	80.1
事業促進費用	49.0	38.5
その他	616.5	202.8
合計	1,575.9	1,195.5

四半期



	2014年3月期		2015年3月期			前四半期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	
人件費	138.8	132.6	168.8	140.8	**142.8**	**1.4%**
支払手数料	28.0	28.7	27.6	33.6	**34.1**	**1.5%**
情報・通信関連費用	47.8	49.9	44.9	46.0	**48.7**	**6.0%**
不動産関係費	19.0	20.5	18.6	18.2	**19.2**	**5.5%**
事業促進費用	11.0	10.1	7.9	9.1	**9.0**	**-0.5%**
その他	47.9	59.4	51.4	52.1	**55.0**	**5.5%**
合計	292.5	301.4	319.2	299.8	**308.9**	**3.0%**

決算のポイント

- 金融費用以外の費用：3,089億円
  (前四半期比3%増)
  - 円安進行が主な増加要因
- 為替インパクトを除く全社費用は前四半期比で微減
  - 主に人件費が減少
    ホールセール部門業績を受けて賞与引当を抑制

12

第3四半期の全社コストは3,089億円、前期比で3%増加しました。
これは円安の進行によるもので、為替インパクトを除く全社コストは、僅かながら減少しています。なかでも、人件費が下がっていますが、これはホールセール部門の業績に応じて、賞与引当を抑制した為です。

バランスシートについてご説明します。13ページをご覧ください。

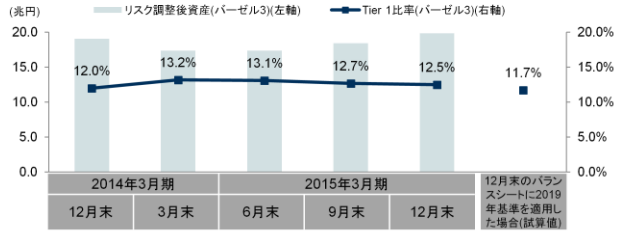
強固な財務基盤を維持

NOMURA

バランス・シート関連指標と連結自己資本規制比率

	3月末	9月末	12月末
■ 資産合計	43.5兆円	43.8兆円	44.1兆円
■ 当社株主資本	2.5兆円	2.6兆円	2.7兆円
■ グロス・レバレッジ	17.3倍	17.1倍	16.2倍
調整後レバレッジ[1]	10.4倍	10.7倍	10.5倍
■ レベル3資産[2] (デリバティブ負債相殺後)	0.4兆円	0.3兆円	0.3兆円
■ 流動性ポートフォリオ	6.1兆円	5.8兆円	6.4兆円

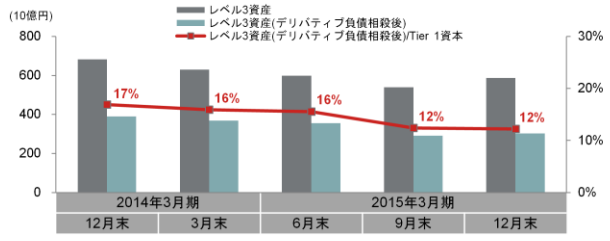
リスク調整後資産[3]、Tier 1比率



(10億円)

	9月末 (バーゼル3)	12月末[2] (バーゼル3)
Tier 1	2,352	2,484
Tier 2	372	368
自己資本合計	2,723	2,852
リスク調整後資産[3]	18,434	19,826
Tier 1 比率	12.7%	12.5%
Tier 1 コモン比率[4]	12.7%	12.5%
連結自己資本規制比率	14.7%	14.3%

レベル3資産[2]の推移と対Tier 1資本比率



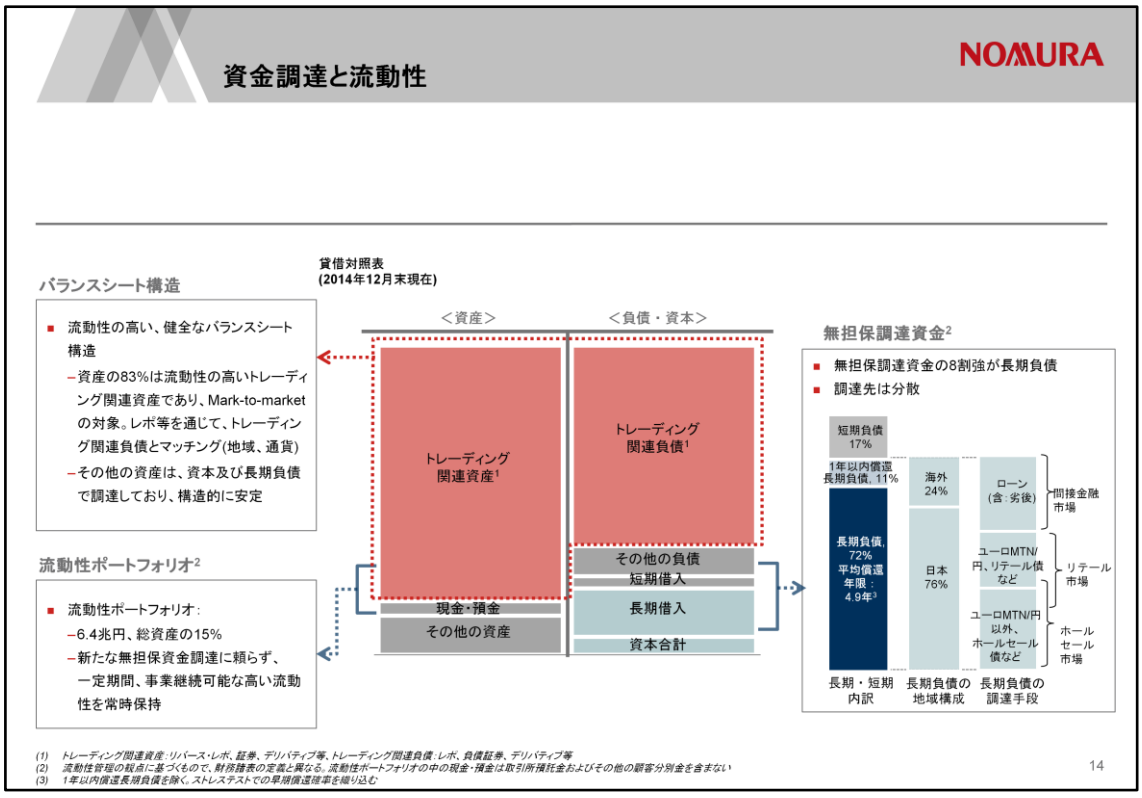
(1) 調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率
(2) 暫定数値 (3) 信用リスク・アセットの算出に用いるエクスポージャーの額は、期待エクスポージャー方式(IMM)を用いて算出
(4) Tier 1コモン比率:Tier 1資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したもの

13

資産合計は44.1兆円、当社株主資本は2.7兆円となりました。

バーゼル3ベースのTier 1およびTier 1コモン比率はともに12.5%、主に円安の影響でリスク調整後資産が増加した事により、9月末の12.7%から若干低下しました。

12月末のバランスシートに2019年の出口基準を当てはめたTier 1比率は11.7%、引き続き、高い水準を維持しております。



最後になりますが、営業部門では、ビジネスモデルの変革が着実に前進し、それがアセット・マネジメント部門に波及するなど、マネジメントとして、手応えを感じる四半期となりました。

一方、ホールセール部門は、10月の難しいトレーディング環境を受けて、欧州・米州のフィクスト・インカムが振るわず、低調でした。従前からではありますが、引き続き、ビジネス・ポートフォリオのレビューを行い、当社の強みがある分野、あるいは、ビジネスの拡大が見込める分野に経営資源を配分していきたいと思います。

前期中にあったMoody's社による格上げは、既に追い風となりつつあります。また既にご覧いただいたように、インベストメント・バンキングでは、注力する分野で楽しみな案件が積み上がってきています。今後も、顧客ビジネスのより一層の拡大を図り、収益性の向上に努めて参ります。

以上、2015年3月期・第3四半期決算につきご報告致しました。

NOMURA

Financial Supplement

バランス・シート関連データ

NOMURA

連結貸借対照表

(10億円)	2014年 3月末	2014年 12月末	前期比 増減
資産			
現金・預金	2,189	**1,948**	-241
貸付金および受取債権	2,571	**2,781**	210
担保付契約	17,347	**15,563**	-1,784
トレーディング資産[1]および プライベート・エクイティ投資	18,714	**21,176**	2,461
その他の資産	2,699	**2,636**	-63
資産合計	43,520	**44,103**	583

	2014年 3月末	2014年 12月末	前期比 増減
負債			
短期借入	602	**578**	-25
支払債務および受入預金	2,837	**3,402**	565
担保付調達	17,112	**16,754**	-358
トレーディング負債	11,047	**10,892**	-155
その他の負債	1,142	**1,141**	0
長期借入	8,227	**8,564**	337
負債合計	40,967	**41,331**	364
資本			
当社株主資本合計	2,514	**2,714**	201
非支配持分	40	**58**	18
負債および資本合計	43,520	**44,103**	583

(1) 担保差入有価証券を含む

バリュー・アット・リスク

NOMURA

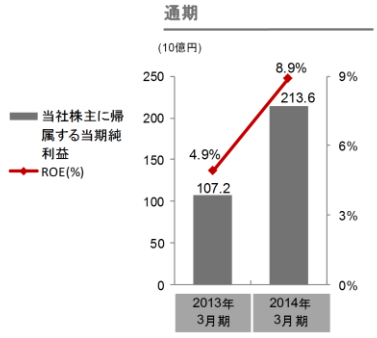
- VaRの前提
  - 信頼水準 ： 99%
  - 保有期間 ： 1日
  - 商品の価格変動等を考慮

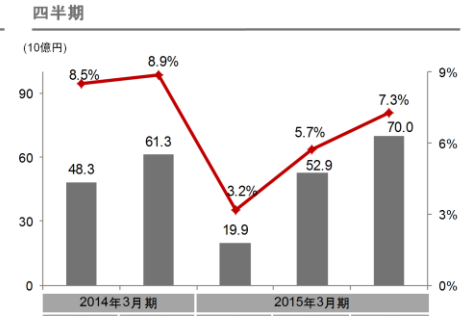
- VaRの実績(10億円)
  - 期間 ： 2014.4.1～2014.12.31
  - 最大 ： 9.8
  - 最小 ： 3.1
  - 平均 ： 6.5

(10億円)	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
株式関連	1.3	1.3	3.6	1.3	2.8	1.5	**3.3**
金利関連	5.0	3.9	6.6	3.9	5.2	4.2	**4.5**
為替関連	1.9	2.8	2.6	2.8	2.0	2.7	**3.1**
小計	8.1	8.0	12.9	8.0	10.0	8.5	**10.9**
分散効果	-3.0	-2.9	-4.3	-2.9	-0.7	-1.6	**-1.2**
連結VaR	5.1	5.2	8.6	5.2	9.3	6.8	**9.7**

連結決算概要

NOMURA





	通期 2013年3月期	通期 2014年3月期	四半期 2014年3月期 3Q	4Q	2015年3月期 1Q	2Q	3Q
収益合計（金融費用控除後）	1,813.6	1,557.1	379.4	389.9	370.8	373.8	**425.0**
税引前当期純利益	237.7	361.6	86.9	88.6	51.7	74.0	**116.1**
当社株主に帰属する当期純利益	107.2	213.6	48.3	61.3	19.9	52.9	**70.0**
当社株主資本合計	2,294.4	2,513.7	2,492.5	2,513.7	2,467.7	2,561.1	**2,714.4**
ROE(%)[1]	4.9%	8.9%	8.5%	8.9%	3.2%	5.7%	**7.3%**
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益（円）	29.04	57.57	13.02	16.48	5.40	14.53	**19.22**
希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益（円）	28.37	55.81	12.65	16.02	5.26	14.15	**18.72**
1株当たり株主資本（円）	618.27	676.15	670.88	676.15	678.69	703.55	**744.91**

(1) 四半期のROEは、各決算期累計の当期純利益を年率換算して算出

連結損益

NOMURA

(10億円)	通期		四半期				
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益							
委託・投信募集手数料	359.1	474.6	121.4	89.9	96.3	112.1	**125.9**
投資銀行業務手数料	62.4	91.3	15.8	27.2	19.8	20.6	**28.8**
アセットマネジメント業務手数料	141.0	167.2	42.1	42.1	45.4	48.4	**50.6**
トレーディング損益	368.0	476.4	108.5	129.2	158.6	129.0	**109.5**
プライベート・エクイティ投資関連損益	8.1	11.4	11.0	-0.3	-0.3	0.5	**-0.2**
金融収益	394.0	416.3	102.6	100.3	104.9	108.8	**115.6**
投資持分証券関連損益	38.7	15.2	7.5	-5.2	6.3	2.9	**11.8**
その他	708.8	179.5	38.5	67.7	31.1	28.5	**65.6**
収益合計	2,079.9	1,831.8	447.4	450.8	462.2	450.8	**507.6**
金融費用	266.3	274.8	68.0	60.8	91.3	77.0	**82.6**
収益合計（金融費用控除後）	1,813.6	1,557.1	379.4	389.9	370.8	373.8	**425.0**
金融費用以外の費用	1,575.9	1,195.5	292.5	301.4	319.2	299.8	**308.9**
税引前当期純利益	237.7	361.6	86.9	88.6	51.7	74.0	**116.1**
当社株主に帰属する当期純利益	107.2	213.6	48.3	61.3	19.9	52.9	**70.0**

NOMURA

連結決算：主な収益の内訳

	(10億円)	通期 2013年3月期	通期 2014年3月期	四半期 2014年3月期 3Q	四半期 2014年3月期 4Q	四半期 2015年3月期 1Q	四半期 2015年3月期 2Q	四半期 2015年3月期 3Q
委託・投信募集手数料	株式委託手数料（営業）	51.8	126.7	36.3	22.6	15.8	21.9	**27.0**
	株式委託手数料(その他)	112.9	139.8	34.9	35.6	34.3	36.9	**46.0**
	その他委託手数料	11.7	18.1	4.4	4.3	3.8	4.0	**6.1**
	投信募集手数料	150.1	157.8	37.7	19.3	30.5	37.5	**32.6**
	その他	32.6	32.1	8.3	8.2	11.9	11.8	**14.1**
	合計	359.1	474.6	121.4	89.9	96.3	112.1	**125.9**
投資銀行業務手数料	株式	21.1	41.4	6.1	14.0	8.5	10.7	**14.5**
	債券	7.8	13.0	2.8	2.9	3.5	3.8	**1.9**
	M&A・財務コンサルティングフィー	25.6	25.0	4.4	7.6	5.7	5.2	**9.3**
	その他	7.7	12.0	2.4	2.6	2.1	0.9	**3.1**
	合計	62.4	91.3	15.8	27.2	19.8	20.6	**28.8**
アセットマネジメント業務手数料	アセットマネジメントフィー	105.3	126.7	31.8	31.9	35.0	37.5	**39.4**
	アセット残高報酬	18.6	22.5	5.7	5.7	5.9	6.3	**6.4**
	カストディアルフィー	17.1	18.1	4.5	4.5	4.6	4.7	**4.8**
	合計	141.0	167.2	42.1	42.1	45.4	48.4	**50.6**

連結決算：セグメント情報と地域別情報　税前利益(損失)

NOMURA

連結決算数値とセグメント数値間の調整：税前利益(損失)

(10億円)	通期		四半期				
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業部門	100.6	192.0	47.7	23.3	31.6	38.9	**50.5**
アセット・マネジメント部門	21.2	27.1	8.9	5.3	8.3	7.8	**9.3**
ホールセール部門	71.7	111.8	27.8	33.5	5.7	22.2	**0.5**
3セグメント合計税前利益	193.5	330.9	84.4	62.1	45.6	68.9	**60.3**
その他	6.6	20.0	-3.7	34.2	2.6	2.5	**44.8**
セグメント合計税前利益	200.0	350.9	80.7	96.2	48.2	71.4	**105.1**
営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	37.7	10.7	6.2	-7.7	3.5	2.6	**11.0**
税前利益	237.7	361.6	86.9	88.6	51.7	74.0	**116.1**

地域別情報：税前利益(損失)[1]

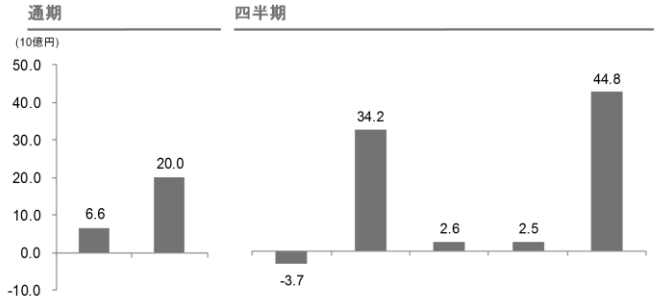
(10億円)	通期		四半期				
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
米　州	25.7	29.5	8.0	31.2	6.1	-6.8	**-12.7**
欧　州	-93.1	-48.9	-14.8	-10.1	-22.9	2.0	**-10.4**
アジア・オセアニア	-12.1	-5.2	-1.5	-5.2	-0.3	8.5	**16.2**
海外合計	-79.4	-24.7	-8.2	15.9	-17.1	3.7	**-7.0**
日本	317.2	386.3	95.1	72.6	68.8	70.3	**123.1**
税前利益	237.7	361.6	86.9	88.6	51.7	74.0	**116.1**

(1)　米国会計原則に基づく「地域別情報」を記載（但し当第3四半期の数値は速報値）。米国会計原則に基づく「地域別情報」は、その収益および費用の各地域への配分が原則として役務の提供される法的主体の所在国に基づき行われており、当社において経営管理目的で用いられているものではありません

セグメント「その他」

NOMURA

税前利益(損失)



	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期 3Q	2014年3月期 4Q	2015年3月期 1Q	2015年3月期 2Q	2015年3月期 3Q
経済的ヘッジ取引に関連する損益	1.0	17.4	5.2	6.5	6.9	2.2	**6.4**
営業目的で保有する投資持分証券の実現損益	1.0	4.4	1.3	2.4	2.9	0.3	**0.8**
関連会社損益の持分額	14.4	28.6	8.2	6.2	3.5	8.0	**18.2**
本社勘定	17.7	-38.8	-14.0	-3.8	-3.1	-8.4	**-3.2**
その他	-27.5	8.4	-4.4	22.8	-7.6	0.5	**22.6**
税前利益(損失)	6.6	20.0	-3.7	34.2	2.6	2.5	**44.8**

営業部門関連データ(1)

NOMURA

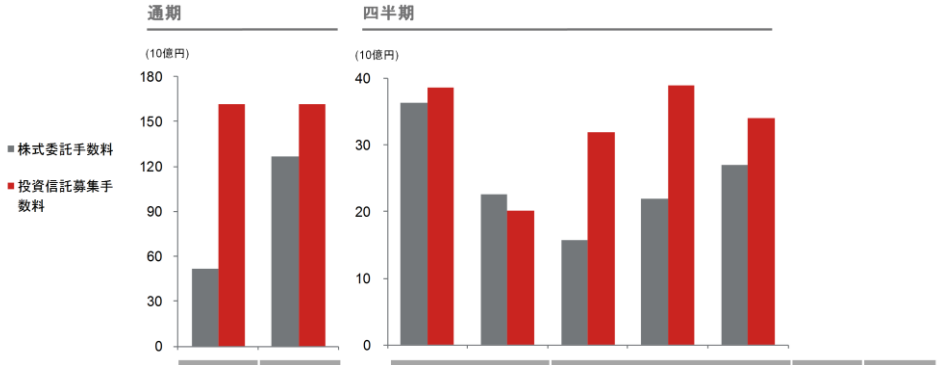
(10億円)	通期		四半期						
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期			前四半期比	前年同期比
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
委託・投信募集手数料	225.9	301.7	78.3	46.5	56.1	68.8	**72.2**	**4.9%**	**-7.9%**
販売報酬	80.9	106.1	25.7	26.4	25.0	25.9	**30.0**	**15.6%**	**16.6%**
投資銀行業務手数料等	36.8	40.3	8.0	9.1	9.1	6.7	**8.7**	**29.1%**	**7.9%**
投資信託残高報酬等	49.7	56.1	14.1	13.9	14.4	15.2	**16.5**	**8.8%**	**17.0%**
純金融収益等	4.6	7.7	1.8	1.9	2.3	1.3	**1.5**	**12.0%**	**-17.7%**
収益合計（金融費用控除後）	397.9	511.9	128.0	97.9	106.9	117.9	**128.8**	**9.2%**	**0.6%**
金融費用以外の費用	297.3	319.9	80.3	74.6	75.3	79.1	**78.3**	**-1.0%**	**-2.5%**
税前利益	100.6	192.0	47.7	23.3	31.6	38.9	**50.5**	**29.9%**	**5.9%**
国内投信販売金額[1]	9,027.6	10,146.4	2,552.5	1,794.1	2,245.2	2,380.2	**2,516.7**	**5.7%**	**-1.4%**
公社債投信	2,719.2	3,146.3	810.2	768.2	795.3	743.9	**831.3**	**11.8%**	**2.6%**
株式投信	5,457.0	6,201.4	1,571.8	836.8	1,264.4	1,402.8	**1,405.4**	**0.2%**	**-10.6%**
外国投信	851.4	798.7	170.5	189.1	185.5	233.6	**280.0**	**19.9%**	**64.2%**
その他									
年金保険契約累計額（期末）	1,909.5	2,033.1	2,000.0	2,033.1	2,123.6	2,206.2	**2,305.2**	**4.5%**	**15.3%**
個人向け国債販売額（約定ベース）	189.1	1,037.0	329.1	214.6	153.5	95.4	**84.0**	**-12.0%**	**-74.5%**
リテール外債販売額	1,485.8	1,595.6	318.6	386.6	363.9	276.3	**361.1**	**30.7%**	**13.3%**

(1) ネット＆コール、ほっとダイレクトを除く

営業部門関連データ(2)

NOMURA

株式委託手数料と投資信託募集手数料



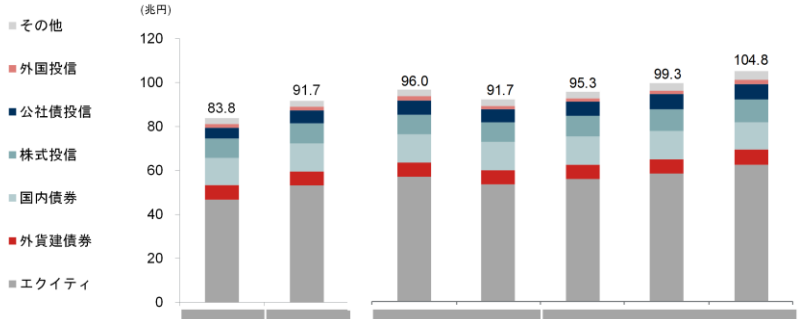
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期 3Q	2014年3月期 4Q	2015年3月期 1Q	2015年3月期 2Q	2015年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
株式委託手数料	51.8	126.7	36.3	22.6	15.8	21.9	**27.0**	**23.2%**	**-25.5%**
投資信託募集手数料[1]	161.5	161.4	38.5	20.1	31.9	38.9	**34.0**	**-12.5%**	**-11.8%**

(1) 野村證券単体ベース

営業部門関連データ(3)

NOMURA

営業部門顧客資産残高



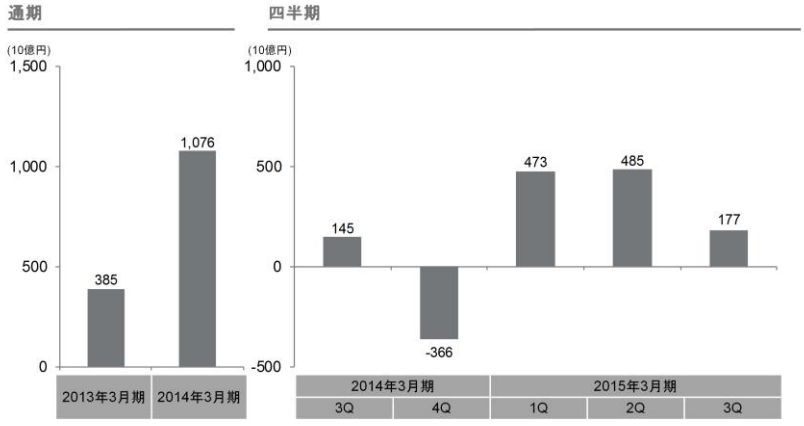
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
エクイティ	46.7	53.2	56.5	53.2	55.6	58.1	**62.2**
外貨建債券	6.6	6.3	6.4	6.3	6.4	6.5	**6.7**
国内債券[1]	12.4	12.8	12.7	12.8	12.8	13.0	**12.3**
株式投信	8.9	9.1	9.2	9.1	9.6	9.9	**10.5**
公社債投信	4.9	5.9	6.6	5.9	6.2	6.5	**7.1**
外国投信	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.8	**1.8**
その他[2]	2.7	2.7	2.9	2.7	3.0	3.5	**4.2**
合計	83.8	91.7	96.0	91.7	95.3	99.3	**104.8**

(1) CB・ワラントを含む
(2) 年金保険契約資産残高を含む

営業部門関連データ(4)

NOMURA

現金本券差引[1]



(1) 地域金融機関を除く、現金および本券の流入から流出を差引

営業部門関連データ(5)

NOMURA

口座数

(千口座)	2013年3月期 3月末	2014年3月期 3月末	2014年3月期 12月末	2014年3月期 3月末	2015年3月期 6月末	2015年3月期 9月末	2015年3月期 12月末
残あり顧客口座数	5,025	5,144	5,104	5,144	5,186	5,211	**5,238**
株式保有口座数	2,717	2,718	2,674	2,718	2,721	2,720	**2,723**
ホームトレード／ネット＆コール口座数	3,747	4,012	3,939	4,012	4,053	4,103	**4,154**

個人新規開設口座数・IT比率[1]

(千口座)	通期 2013年3月期	通期 2014年3月期	四半期 2014年3月期 3Q	四半期 2014年3月期 4Q	四半期 2015年3月期 1Q	四半期 2015年3月期 2Q	四半期 2015年3月期 3Q
個人新規開設口座数	266	364	91	90	67	81	**77**
IT比率[1]							
売買件数ベース	55%	58%	54%	60%	60%	60%	**58%**
売買金額ベース	31%	33%	27%	37%	36%	37%	**37%**

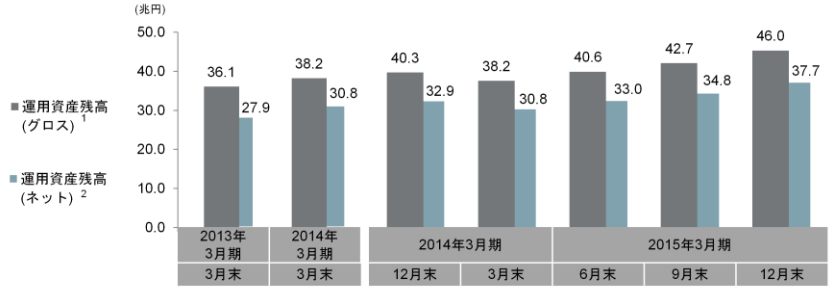
(1) 現物株のうち、ホームトレードを通じて売買された割合

アセット・マネジメント部門関連データ(1)

NOMURA

(10億円)	通期		四半期						
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期			前四半期比	前年同期比
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計（金融費用控除後）	68.9	80.5	21.2	20.5	23.3	21.7	**23.4**	**8.1%**	**10.5%**
金融費用以外の費用	47.8	53.4	12.3	15.1	15.1	13.9	**14.1**	**1.5%**	**14.7%**
税前利益	21.2	27.1	8.9	5.3	8.3	7.8	**9.3**	**19.7%**	**4.7%**

アセット・マネジメント部門　運用資産残高



(1)　野村アセットマネジメント、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、野村プライベート・エクイティ・キャピタルの運用資産の単純合計
(2)　運用資産残高（グロス）から重複資産控除後

アセット・マネジメント部門関連データ(2)

NOMURA

アセット・マネジメント部門　運用資産残高(グロス)[1]ービジネス別

(兆円)	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
投資信託ビジネス	26.5	28.4	29.4	28.4	29.6	31.3	**33.9**
投資顧問ビジネス	9.6	9.8	10.9	9.8	11.0	11.4	**12.1**
運用資産残高(グロス)[1]	36.1	38.2	40.3	38.2	40.6	42.7	**46.0**

アセット・マネジメント部門　資金流出入ービジネス別[3]

(10億円)	通期		四半期				
	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
投資信託ビジネス	1,099	1,598	962	-319	473	879	**1,124**
うちETF	424	882	89	501	-23	90	**298**
投資顧問ビジネス	-529	-520	226	-938	27	-44	**-46**
資金流出入 合計	570	1,078	1,189	-1,257	500	835	**1,078**

運用資産残高ー会社別

(兆円)	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
野村アセットマネジメント	30.7	33.8	36.0	33.8	36.2	38.3	**41.2**
野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー	2.9	2.6	2.6	2.6	2.5	2.6	**2.9**
ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント	1.8	1.6	1.6	1.6	1.7	1.6	**1.6**
野村プライベート・エクイティ・キャピタル	0.7	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	**0.2**
運用資産残高(グロス)[1]	36.1	38.2	40.3	38.2	40.6	42.7	**46.0**
グループ会社間の重複資産	8.2	7.4	7.5	7.4	7.6	7.9	**8.3**
運用資産残高(ネット)[2]	27.9	30.8	32.9	30.8	33.0	34.8	**37.7**

国内公募投信残高推移と野村アセットマネジメントのシェア[4]

(兆円)	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
国内公募株式投信残高							
マーケット	60.0	65.7	65.0	65.7	68.8	71.7	**77.1**
野村アセットマネジメントシェア	18%	19%	19%	19%	18%	19%	**19%**
国内公募公社債投信残高							
マーケット	12.6	14.5	16.5	14.5	14.8	15.4	**16.4**
野村アセットマネジメントシェア	43%	42%	43%	42%	43%	43%	**43%**

(1)　野村アセットマネジメント、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、野村プライベート・エクイティ・キャピタルの運用資産の単純合計
(2)　運用資産残高(グロス)から重複資産控除後　*(3)　運用資産残高(ネット)に基づく資金流出入額*　*(4)　出所: 投資信託協会*

ホールセール部門関連データ(1)

NOMURA

ホールセール部門

(10億円)	通期 2013年3月期	通期 2014年3月期	四半期 2014年3月期 3Q	四半期 2014年3月期 4Q	四半期 2015年3月期 1Q	四半期 2015年3月期 2Q	四半期 2015年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
収益合計（金融費用控除後）	644.9	765.1	188.7	198.5	188.9	190.6	**178.9**	**-6.1%**	**-5.2%**
金融費用以外の費用	573.2	653.3	160.9	165.0	183.1	168.4	**178.5**	**6.0%**	**11.0%**
税前利益	71.7	111.8	27.8	33.5	5.7	22.2	**0.5**	**-98.0%**	**-98.4%**

ホールセール部門　収益の内訳

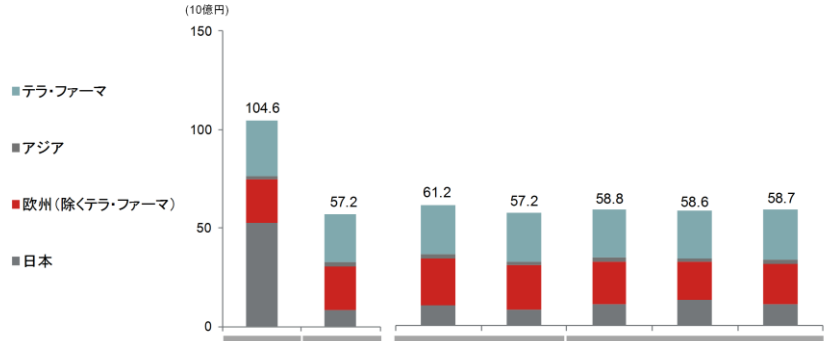
(10億円)	通期 2013年3月期	通期 2014年3月期	四半期 2014年3月期 3Q	四半期 2014年3月期 4Q	四半期 2015年3月期 1Q	四半期 2015年3月期 2Q	四半期 2015年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
フィクスト・インカム[1]	387.7	398.2	99.2	107.7	104.5	104.1	**76.3**	**-26.7%**	**-23.1%**
エクイティ[1]	172.8	251.5	58.8	59.0	62.0	64.0	**73.5**	**14.8%**	**24.9%**
グローバル・マーケッツ	560.4	649.7	158.0	166.8	166.6	168.1	**149.7**	**-10.9%**	**-5.2%**
インベストメント・バンキング（ネット）	72.0	97.4	19.0	29.5	22.8	22.5	**29.6**	**31.6%**	**55.6%**
その他	12.4	18.0	11.7	2.2	-0.4	0.0	**-0.4**	**-**	**-**
インベストメント・バンキング	84.4	115.4	30.7	31.7	22.3	22.5	**29.2**	**29.8%**	**-4.7%**
収益合計（金融費用控除後）	644.9	765.1	188.7	198.5	188.9	190.6	**178.9**	**-6.1%**	**-5.2%**
インベストメント・バンキング（グロス）	143.0	184.3	35.9	55.4	43.2	40.7	**52.7**	**29.3%**	**46.6%**

(1)　2013年4月の組織改正に伴い、2013年3月期のフィクスト・インカムおよびエクイティを組み替えて表示

ホールセール部門関連データ(2)

NOMURA

プライベート・エクイティ関連投資残高



	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
日本	52.7	8.1	10.5	8.1	10.8	13.2	**10.8**
欧州（除くテラ・ファーマ）	21.8	22.6	23.9	22.6	21.8	19.3	**20.7**
アジア	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	**2.1**
合計	76.5	32.6	36.3	32.6	34.5	34.4	**33.5**
テラ・ファーマ	28.1	24.6	24.9	24.6	24.2	24.2	**25.2**
総合計	104.6	57.2	61.2	57.2	58.8	58.6	**58.7**

人員数

NOMURA

	2013年3月期	2014年3月期	2014年3月期		2015年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
日本（FA除く）	14,123	14,149	14,308	14,149	14,559	14,391	**14,290**
FA社員	1,907	1,888	1,918	1,888	1,889	1,853	**1,853**
欧州	3,618	3,461	3,456	3,461	3,481	3,530	**3,539**
米州	2,271	2,281	2,248	2,281	2,335	2,421	**2,445**
アジア・オセアニア[1]	6,037	5,891	5,902	5,891	6,656	6,744	**6,762**
合計	27,956	27,670	27,832	27,670	28,920	28,939	**28,889**

(1) インド(ボワイ・オフィス)を含む

Disclaimer

NOMURA

本資料は、野村ホールディングス株式会社が、米国会計基準による2015年3月期第3四半期の業績に関する情報の提供を目的として作成したものです。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。売付または買付の勧誘は、それぞれの国・地域の法令諸規則等に則って作成・配布される募集関連書類または目論見書に基づいて行われます。

本資料に掲載されている情報や意見は、信頼できると考えられる情報源より取得したものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本資料の一切の権利は別段の記載がない限り野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

本資料は、将来の予測等に関する情報（「将来予測」）を含む場合があり、また当社の経営陣は将来予測に関する発言を行うことがあります。これらの情報は、過去の事実ではなく、あくまで将来の事象に対する当社の予測にすぎず、その多くは本質的に不確実であり、当社が管理できないものであります。実際の結果や財務状態は、これらの将来予測に示されたものとは、場合によっては著しく異なる可能性があります。したがって、将来予測は、過度に信頼すべきではなく、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。実際の結果に影響を与える可能性がある重要なリスク要因としては、経済情勢、市場環境、政治的イベント、投資家のセンチメント、セカンダリー市場の流動性、金利の水準とボラティリティ、為替レート、有価証券の評価、競争の条件と質、取引の回数とタイミング等が含まれるほか、当社ウェブサイト（http://www.nomura.com ）、EDINET（http://info.edinet-fsa.go.jp/）または米国証券取引委員会（SEC）ウェブサイト（http://www.sec.gov）に掲載されている有価証券報告書等、SECに提出した様式20-F年次報告書等の当社の各種開示書類にもより詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来予測に変更があった場合でも、当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

NOMURA

Nomura Holdings, Inc.
www.nomura.com/jp/